

【担当教員名】 高木昭輝	対象学年	2	対象学科	理学
	開講時期	後期	必修・選択	必修
	単位数	2	時間数	30

【<概要>又は<一般目標 : G I O>】

理学療法が対象とする症候群や疾患が呈する機能障害に由来する動きを運動病態という概念から考え、理学療法的治療学としての機能障害回復学へと関連付けて考えることができる。

【<学習目標>又は<行動目標 : S B O>】

- 1 運動病態学の概念を機能障害回復学との関係で説明できる。
- 2 神経・筋の障害による運動病態を例を挙げて説明できる。
- 3 末梢神経系障害による運動病態を例を挙げて説明できる。
- 4 筋原性の運動病態を例を挙げて説明できる。
- 5 中枢神経系障害による運動病態を例を挙げて説明できる。
- 6 実際の運動病態は様々な原因によること、様々な症状を呈することを例を挙げて説明できる。
- 7 理学療法に関係する倫理、法規、管理運営について説明できる。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO	
		番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	オリエンテーション運動病態学の概念と機能障害回復学との関係)	1	講義
2	末梢神経系障害に由来する運動病態 (1)	1, 2	講義
3	末梢神経系障害に由来する運動病態 (2)	1, 2	講義
4	末梢神経系障害に由来する運動病態 (3)	1, 2	講義
5	筋原性の運動病態 (1)	1, 2	講義
6	筋原性の運動病態 (2)	1, 3	講義
7	筋原性の運動病態 (3)	1, 3	講義
8	中枢神経系障害による運動病態 (1)	1, 4	講義
9	中枢神経系障害による運動病態 (2)	1, 4	講義
10	中枢神経系障害による運動病態 (3)	1, 4	講義
11	呼吸や摂食・嚥下性を運動病態学の観点から考える。	1, 5	講義
12	姿勢制御や運動制御の障害を運動病態の観点から考える。	1, 5	講義
13	対象例を運動病態学の観点から考える。	1, 5	講義
14	まとめ (1)	1, 2, 3, 4, 5	講義
15	まとめ (2)	1, 2, 3, 4, 5	講義

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書 (必ず購入する書籍)	なし、プリント、ビデオ			
参考書	神経系のリハビリテーション 多重感覚治療法 : Shereen D. Farber著、平山義人、鷺田孝保監訳、協同医書			
その他の資料				

【評価方法】 授業貢献度、出席、発表、期末試験などを総合的	【履修上の留意点】
----------------------------------	-----------